

Solan Big Thinkers

「突破」の瞬間 & 集団が持っている教育力

「数」の時間に計算問題（呼称：暗算検定）に取り組んでいます。
4分以内に1枚終わらせることを目標のひとつとしています。
2分以内が次の目標。

子ども達に取り組んでいる間、進捗を見て回ります。

「あの子は2分でプリントの半分が終わった」

「この子はどこでつまづいているのかな」

あれこれ考えながら、見ています。

今日はある子が「くり上がりのある足し算」を4分以内に全部解き終わりました。

「くり上がり」「くり下がり」は1年生にとって大きな壁の一つです。

その子は3Qから長らくの間、「あと5問」「あと2問」などと一進一退を繰り返していました。

私は進捗を見ながら、「頑張れっ！」と心の中で応援する日々でした。
それでもなかなか突破できません。昨日も突破できませんでした。

しかし、その子は挫けることなく、同じプリントを自分で持ってきて取り組み続けました。

本当に健気に努力を重ねていたのです。

それを知っているからこそ、こちらもハラハラドキドキしながら見守っていました。

そして、ついに突破の日がやってきました。

1分30秒。

半分を解き終わりました。

「あれ？いつもよりかなり速い。いけるかも・・・」

気になって仕方がないので、その子から少し離れたところで立ち止まって見守る私。

ペースが遅くなってきているので、心配になってきます。

最後の1問。

解き終わってタイマーを見ます。3分59秒。

4分経過後、「やったな〜！」思わず、すぐに声をかけました。

その子は頬を赤らめながら、それはもう嬉しそうな表情をしていました。心なしか目がうるんでいるようにも見えました。

そういう感動の瞬間は周囲に影響を及ぼします。

「先生、特訓したいのでプリント（を）、持って行っていいですか？」

「私もほしい！」

「私は家でやりたいんですけど、持って行っていい？」

休憩の時間になってもプリントに取り組む子ども達もいました。

「休憩しなさいよ。」

「お〜い・・・休憩してね・・・。」と休憩を促す私。

集団が持っている教育力とでも言いましょうか。

集団で学んでいるからこそ、こういう相乗効果も生まれてくるわけです。

互いに高め合う、認め合う。

そんな子ども達の姿に新年早々、胸が熱くなりました。

